

取組の概要

対象畜種

鶏卵、豚、肉牛

協議会構成員

耕種農家、畜産農家、JAみやぎ登米、登米市、伊藤忠飼料、宮城県登米農業改良普及センター、宮城県東部家畜保健衛生所等

飼料用米生産面積

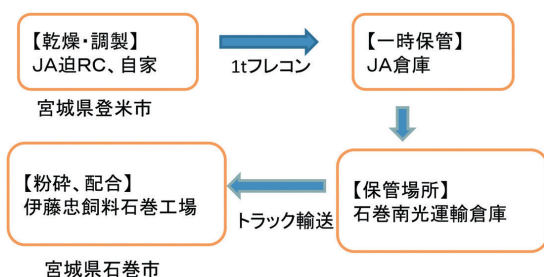
42.5ha

供試品種

べこあおば 20.0ha
ふくひびき 20.0ha
その他 2.5ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆収穫物はJA迫RC、町域倉庫に全量集荷。
- ◆JA倉庫からのトラック輸送は、全農物流に依頼。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査
(畜産物の成分分析を含む)

試験設計：採卵鶏飼料に10%飼料用米を配合。

肥育豚の仕上げ飼料に5%飼料用米を配合。

調査項目：生産成績、卵質、肉質

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆転作座談会におけるPR。

- ◆学校給食に飼料用米給与鶏卵を無償提供。

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 飼料用米専用インフラ整備がされていないため、調製、保管、流通に係る労力、コストが想定以上の負担となった。
- H20年度は定着化導入資金による助成金でおよそ対応できたが、助成金がなくなると再生産所得が確保できない。
- また、飼料用米価格が低価格であり、米粉価格と影響し合い、作付面積が不安定になることが予想される。
- 異品種混入防止を図るための指導、多収穫米品種栽培技術指導の徹底を図る。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 採卵鶏の生産成績のうち、生存率、産卵率、卵重は飼料要求率に影響はなかった。
- 卵質のうち、卵黄色のカラーファンナンバーが0.4～0.5程度低下した。
- 肥育豚の生産成績のうち、生存率、増体率、飼料要求率に影響はなかった。
- 肉質成績のうち、枝肉成績に影響はなかった。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 転作助成金（産地確立交付金等）の拡充が必要である。
- 国産飼料の安定供給、国土の保全、環境維持等の国民的理解を求め、飼料用米の活動を継続して行い、食料自給率向上を図る。
- 国産畜産物の安全、安心への関心が非常に強くなった。
- 転作座談会でのPRによる効果があった。
- 学校給食にて飼料用米給与鶏卵を試食してもらった際、子供達に好評だった。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 飼料用米はトウモロコシ等の飼料原料の代替えとなるが、両者には価格差があるため、畜産物に付加価値を付けられない限り、購入する畜産サイドの負担となる。
- 飼料用米の取組を継続させるには、実需者の負担を下げる検討も必要とされる。
- 循環型農業を消費者にも理解してもらい、国民的運動として展開しなければならない。公的広報活動も必要。
- 飼料用米の取組は初年度であるため、作目の作付、メリ

ット、乾燥調製・流通・保管経路や経費負担への理解、協議会設立等、短期間に実施するのは非常に困難である。
■ 今後は、消費者を加えたメンバーで循環型農業の確立を目指す。

ＪＡみやぎ登米営農企画課 大泉 里美

参考データ・写真等

